

前回の掲載からはや2カ月過ぎてしまいました。4年生は春の国家試験に向けてこれから大事な季節ですね！。さて、前号の保険薬局の調剤室の実習では、患者さんや家族の方からのお話・ご要望をもとにした調剤方法の工夫や、大学の講義で学習したことが実践の場で応用されていることを、実習の中でつかみ取ることができるという話をしました。第2回の今回は、調剤室を離れて患者さんのお宅へ」を主題とした在宅訪問服薬指導に関するお話です。

“在宅”実習にトライを

医療保険上では『在宅患者訪問薬剤管理指導』と呼び、介護保険上では『居宅療養管理指導』と区別して呼ばれるのですが、今回は混乱しないように通称の“在宅”という言葉を使用して話を進めます。

“在宅”は《何か特別なことをする》ことではありません。薬局の調剤室やカウンターで行っている仕事が、患者さんのお宅に移動して行われているだけなのです。でも、この環境の変化はとて大きいために、薬剤師に“特別なこと”というイメージを与えてしまうのかもしれない。

在宅での大きな違いの一つは、《安心》だと思えます。患者さんも家族の方も多くの人が待っている病院での診察を終え、その後でまた保険薬局に行かなければなりません。その保険薬局で、とても親切に対応してくれたり、落ち着いた雰囲気があったとしても、疲れた患者さんや家族の方には、『早くお家に帰ってくつろぎたい』という感情があると思います。そうでなくても、病院や保険薬局では周りの方々や職員に気兼ねをして、なかなか聞きたいことが聞けないということもあります。“在宅”であれば周りに気兼ねする必要もなくなり、遠慮して聞けなかったようなことを安心して質問することができるようになります。このため、薬局の待合室では聞くことができなかったことを、いろいろ教えていただけるのですが、これまでに遭遇したことのない質問にたじろぐこともあります。でも、ここでたじろいだり後ずさりして

質問への返答は正確・慎重に

逃げ出してしまうことなどできません。答えられることには理解しやすい言葉で返答し、即答できないことや確認が必要なことは、「調べてから、後ほど連絡させていただきます」と答えるようにしています。

でも、この対応を聞いた薬学生さんは、『何だ、この薬剤師！何も知らないんだな！今ここで答えてあげればいいじゃないか？』と感ずることがあるかもしれません。しかし、このときは学校の講義で習った“チーム医療”のことを思い出してください。“在宅”で患者さんや家族の方にとって一番大事なことは、「適切な薬物治療のサポート」を、薬剤師が実践することにあると思います。“在宅”で薬剤師が直接行えることは、医療のごく一部に過ぎません。患者さんの質問に対して、医師の診断や治療計画、看護師の看護計画と共に、薬剤師の訪問指導計画と一貫性を欠く

調剤室を離れ、患者さんのお宅へ

こんなことを実習前に話してしまったら、“ビビッて”しまって“在宅”には行きたくないと考えてしまう方もいるかもしれません。でも、ご安心ください。“在宅”での大きな違いのもう一つ、《保険薬局の薬剤師が知らない世界》が待っています。

“在宅”の患者さんはどのような環境で生活されているのか、食事など栄養状況はどのようなのか、それに関連する褥創などの管理はどのように行われているのか、点滴をしている患者さんであれば、どのようなラインでどれくらいの時間をかけて、どれくらいのカロリー

実践!! 薬局実務実習

そのポイントと着目点

オオノ 人材開発部

小林 満

○ 2 ○

ような返答は慎まなければなりません。

このような例えでは誤解を招くかもしれませんが、『調剤室で間違っただけで調剤してしまった粉薬も取り間違っただけで錠剤も、患者さんの手に渡る前には正しい薬に変更することができても、一度間違っただけで話してしまった内容を、後から訂正して患者さんに正しい内容を頭の中に保持していただくことはとても難しい』のです。これは、薬局のカウンターでの服薬指導でも同じことが言えます。『覆水盆に返らず』という言葉がありますが、《服薬指導などの言葉という“水”》は、こぼしたら戻すことが難しいことを“在宅”の実習で確認することができるかもしれません。

一を点滴でカバーしているのか、点滴でどのような器具を使用しているのか、尿量は？体温の経時変化は？嚥下はうまくいっているか？——これらのどれもが、大学の講義で学習した医学概論、病態生理学、物理薬理学、生化学などの実践であることを確認できるでしょう。そうです、“在宅”はとて素晴らしい実習項目です。実習できるチャンスのある方は、進んで手を上げて“在宅”にトライしてみてください。素敵な薬剤師を育成していただける、素晴らしい患者さんが、笑顔でお迎えして下さるでしょう。

ドラッグ業界、調剤報酬額トップクラス

セガミメディクスはドラッグストア及び調剤薬局を316店舗展開する薬局チェーンです。大病院の門前薬局を含む54の調剤薬局を持ち、年間の処方箋応需枚数は120万枚を超え、月間千枚以上処方箋応需店舗数、業界1位を記録(2006年)。お客様や患者様の立場に立った丁寧なアドバイスを徹底し「かかりつけ薬局」をめざしています。

薬学生 募集中!

segami+

セガミ薬局

ドラッグセガミ

パウダードラッグワンス

認定薬剤師
育成・助成制度
導入!

詳しくはホームページをご覧ください
<http://www.segami.co.jp>

セガミメディクス株式会社
大阪市中央区南船場2-7-30

フリーダイヤル:0120-999-041
E-mail:y-ueno@segami.co.jp